

明日は
どっちだ!
commentary
321

2

002年8月から昨年10月まで、NPO「日本国際ボランティアセンター」(JVC)のアフガニスタン現地代表として地域医療や教育支援活動に携わりました。帰国して思うのは、01年10月に史上初の対テロ戦争の舞台として騒がれたアフガニスタンが忘れられようとしていることです。米英軍などがいまだにタリバンやアルカイダへの掃討作戦を続けていることはあまり知られていないと思います。

そして今、問題は単なるアメリカ対タリバンではなく、NGOや多くの民間人が巻き添えになっ

てきているほどの治安の悪化です。私が

赴任した02年は一人でも外出できませんでした。でも、翌年

3月のイラク戦争勃発前後から状況は一変します。まず03年1月、

タリバンとアルカイダの両者が「アフガン政府、外国人、NGOはアメリカの手先だ」と、私たち

NGOをも攻撃対象にするジハード(聖戦)宣言をしました。はたしてNGOへの襲撃が始まり、05年には31人が殺害されました。

また、タリバンを抑えきれない米軍は、民家に土足で入り込んで家宅調査をしたり、少しでも怪しいと思えば発砲を繰り返したりしています。私たちの現地スタッフの母親も、タクシーに乗っていた

ら突然米軍の発砲を受けて負傷しました。そうやって亡くなる民間人が相当数いるのは事実です。

当然ながら反米感情は高まり、自らタリバンになったり、タリバンを支持したりする人が後を絶ちません。米軍が戦闘を続けるほどタリバンの兵力は増員され、アフガンは泥沼化しているのです。

03年になってから、アメリカは新しい作戦「PRT」(地域復興支援チーム)を展開します。PRTとは、軍隊と文民援助専門家とが一緒に活動して治安回復と復興支援を達成し、それにより中央政府の覇権を地方に拡大するという、紛争地での新しい支援形態です。

この計画に、アフガンで活動するNGOの多くが反対を表明しました。軍と民が共に行動すればNGOが軍と同一視されてしまい、NGOの安全確保が難しくなり、住民も戦闘に巻き込まれる危険が大きくなるからです。また、軍に人道・復興支援ができるのかという不安もありました。

不安は的中しました。05年2月、JVCが支援する現地の診療所に米軍が5台の装甲車で乗りつけ、「住民に薬を配るので退去せよ」とスタッフを閉め出したのです。翌日、米軍は、薬、石炭、シヤンブーなどをばらまき、モノ欲しさに1000人以上の住民が殺到しました。米軍側には「医師」や「医療従事者」を騙る民間のアフ

アフガン支援

アフガン支援は曲がり角にきている。
軍民一緒にの復興チームには問題が多い。

谷山博史

Taniyama Hiroshi
JVC代表



1958年、東京都生まれ。
中央大学大学院法学研究科修了。
86年から日本国際ボランティアセンター(JVC)の一員として、タイの難民キャンプを皮切りに、ラオス、カンボジアに駐在。その後、JVCアフガニスタン現地代表。昨年11月から現職。

ガン人がいましたが、まったく診療することなく、妊婦に危険な薬までばらまいたのです。

フランスのNGO「AMI」が支援する診療所でも薬がばらまかれました。注目すべきは、そこを離れた直後、米軍が武装勢力に襲われたことです。もし米軍が診療所に留まっていたら軍事拠点と見られ、襲われたことでしょう。

PRTの目的は「中央政府の覇権の地方拡大」といいますが、本当の狙いは人道支援を通して民心を掌握し、タリバンなどの情報を住民から引き出すことです。実際、米軍は南部カンダハル県で「引き続き支援が欲しければ、タリバンやアルカイダの情報を提供せよ」というビラをまいています。診療所占拠事件の時も、隊員が関係のない部屋で書類を物色していたのをスタッフが見ています。

PRTは今、NATO(北大西洋条約機構)加盟国の軍も実施し、アフガンの20カ所以上で行われています。

じつは、私自身はアフガンでそれほど差し迫った危険を感じたことはありません。私は、行く先々で住民から異口同音にこう言われたものです。「日本だけが政治的意図と軍事的目的がなく、復興支援してくれる」と。私たちNGOは丸腰だからこそ、かつ、日本の軍が現地にいないからこそ、こう評価されているのです。

ところが今年1月、安倍首相がNATO本部で「自衛隊の海外派遣をためらわない。NATOのPRTに協力する」と演説したのに、不安を覚えました。もし自衛隊がアフガンのPRTに参加すれば、住民の評価を裏切ることになり、自衛隊と一緒に活動するNGOは武装勢力の明確な標的になるのです。私たちNGOは、情報収集活動のために「協力」を要請されるかもしれません。

じつは、現地ではすでに要請がありました。2月上旬、JVCが活動する地域の保健局長が「米軍PRTの医療活動にNGOは協力を」と要請してきたのです。JVCはこれを拒否しています。

安倍演説の後、アフガンで活動する日本のNGOのいくつかが共同で、安倍首相、内閣府、外務省に公開質問状を送りました。PRTに、財政支援だけでなく人的支援もする場合はJICA(国際協力機構)や自衛隊を念頭に置いているのか、どの地域にどの分野で計画しているのかなどの質問ですが、まだ回答はありません。

アメリカは「PRTは成功している」として、イラクでもこのやり方をしていますが、自衛隊がその構想に乗ることは極めて不合理です。いま一度、国際協力はどうあるべきかを、日本政府も私たち国民も熟慮すべきだと思います。聞き手・ジャーナリスト 榎田秀樹